

基本情報



【年 齢】
54歳
【出身地】
神奈川県座間市
【転出元】
大阪府高槻市
【前 職】
会社役員
【活動時期】
R5.4～R8.3

協力隊に応募したきっかけ

高校生の息子が滋賀県内の学校に通学。コロナ禍、私の仕事のリモートになったこともあり、滋賀県守山市に家を借りお試し移住をしてみたことが、本格的に滋賀への移住を考えるきっかけでした。なんせ空は広いし、空気は澄んでいるし、食べ物は美味しいし。あわせて50歳を過ぎた頃から、仕事をする意義について考え始め、経済的なメリットよりも、今までの経験を活かし、誰かのためになる仕事をしたいと強く思い、前職の化粧品会社CMOを退任。協力隊に応募し、町のために働きたいと思いました。

今後の抱負・任期後の目標

街には広い土地や美味しくて安い食材など、資源は豊富にあるにも関わらず、町に住む人々に還元されていないと思いました。たとえば名産品である「秦荘のやまいも」は贈答品として町外に出荷され、町には食べたことがない人も多かったり、美味しい野菜は町外の飲食店に出荷され、地域のスーパーには県外の野菜しか並んでいなかったり。町の人がこの町をもっと好きになれるように、町の資源を還元し、また、町のいいところを知ってもらうための活動を行っていきたいと考えています。

活動内容

●地域資源をつかった商品開発

1年目のR5年11月に、愛荘町のしょうがを使ったジンジャーシロップ「愛しょうが」を発売しました。かつてしょうがの一大産地だったのに、現在では数件しかないしょうが農家から仕入れ、使い道がなかった種しょうがをアップサイクルしました。「愛しょうが」の名称は幅広く商標登録し、町内のしょうがを使った加工食品を販売する場合には、誰もが無償で利用できる仕組みを作りました。これによりしょうがの生産が増えることを目的としています。



●地域の空き家を活用したコミュニティキッチンを開拓

空き家をリノベーションして、まちのキッチン「MACHI KICHI」を開拓予定。町の美味しい食材を気軽に食べられるお惣菜屋を始めます。また飲食店をしたい人にレンタルしたり、料理教室を開催したり、コミュニティキッチンとして町の人が集まれる場所に育てたいと考えています。協力隊同期に生ごみ堆肥を促進する活動をしているメンバーがいるので、コンポストを設置し、生ごみを減らす実験も町の人とともに進めていく予定です。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】

(メールアドレス(愛荘町みらい創生課)) seisaku@town.aisho.lg.jp
(電話番号(愛荘町みらい創生課)) 0749-29-9046

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】

移住スカウトサービスSMOUT <https://smout.jp/scoutees/51908>
Instagram まちのキッチン MACHI KICHI (@machi_kichi)